

竹内さんのウクライナ便り

任期中にロシアと締結したガス輸入に関する契約により、ウクライナに損失をもたらしたかどで実刑判決を受けたティモシェンコ前首相は、12月30日ウクライナ東部ハルキウ市の刑務所に移送。抗議行動の盛り上がり避けるため、故意に年末のせわしない時期が選ばれたのではという見方が有力です。その後、彼女の夫は家族への圧力を理由にチェコに政治的亡命を申請して認められ、ある世論調査では、前首相の支持率が現大統領ヤヌコヴィチ氏の支持率を超えたという結果が出ており、「彼女は自分では何もしないまま、同情を集めて人気を高めた」と揶揄する向きもあります。一方、ロシアとのガス価格に関する交渉は結局遅々として進まず、エネルギー・石炭産業相ポイコ氏は、ロシアからのガス輸入量を減らし、国産の資源（石炭等）に移行する考えを表明。ドネツクで行われていた事故処理作業員らのハンガーストライキは、11月末にテントが夜間に強制撤去され、その際70代の男性が心臓発作で亡くなるという事件が発生。すぐさま事故処理作業員らの抗議行動が全国に拡がり、キエフの内閣前でもハンストが始まった結果、政府は1月から彼らへの年金を法に決められた通り支払うと声明を出して妥協が成立しましたが、現実には必ずしも全員に対しそのような措置が取られているわけではないようです。

私は1月中旬から、キエフを訪問された山口県宇部市の市民団体代表Iさんの通訳をしていました。Iさんたちの団体は、チェルノブイリ事故後キエフ市に移住した元プリピャチ市民の互助団体を支援しているのですが、その団体は現在賃借している幼稚園の一角のスペースを明け渡すようキエフ市行政から要求され、同じ地区内の元住宅管理局事務所のスペースを提供されることになっています。しかしその移転先は、28年前に建てられたまま改装をしておらず、電気工事や内装工事が必要で、しかも一室は住宅管理局の当直室として使用中のままです。この当直室には、担当地域内のエレベーター・ガス・電気関係でトラブルがあると、それがランプで表示されるパネルが



<キエフ・ナイチンゲール合唱団関係者と
(都心の独立広場にて2012. 1. 16.) >

あり、これを移転するためには80万円程度がかなり、地区にその予算がないからだそうです。Iさんは、この件で陳情するため、互助団体の代表とともに地区行政の副行政長に面会されました。副行政長は30代前半かと思われる若さで弁舌滑らか、自身もプリピャチからの移住者ということでしたが、話の後半はもっぱら昨秋地区内の「京都公園」（キエフ市と京都市が姉妹都市なため、この地区内に「京都通り」という通りがあり、それに沿って石庭らしきものが造られた公園があった）がリニューアルされ、日本から持ち込まれた桜370本（だか380本だか）が植えられた並木道ができ、その開園式に京都市長を含む大人数の派遣団が日本から参加した……という件に費やされました。この「京都公園」内には、日本料理店を含む日本文化センター的性格の施設を建設する予定もあるのだということでしたが、「そういうお金があるのなら、我々が陳情に来たその件についてもなんとかしてほしい」と大いに突っ込みたいところでした。京都からの派遣団の方々は、この地区に86年、3万人ほどの元プリピャチ市民が移住先を提供されたことなど聞かれたのでしょうか？ ちなみに同じ昨秋には、福島県の地方自治体議員や福島大関係者らもこの互助団体を訪れ、短時間ながら熱のこもった交流があった由。Iさんは「このような互助団体が25年間活動し、被災者たちが支え合っているということが、福島原発周辺から移住を余儀なくされた人たちの希望ともなるはず」と語っておられました。

(1月25日)